

# 明倫館だより

第49号  
平成20年5月1日発行  
発行人 井上晴雄  
財団法人 南豫奨学会  
南豫明倫館  
〒184-8586  
小金井市中町4-18-26  
TEL 042-383-9835(代)

皆上手を  
見ている初夏の  
草野球  
屋上に  
集まる友よ  
遠花火  
岡本 光平  
「明倫館俳句会」

## 新社会人への希望に燃え 期待の十四人が卒業



卒業生氏名(大学名・出身地)進路  
一、将来の抱負 二、後輩への助言

**二宮 泰明**(専修大学・経営学部、西予市)  
三浦工業株式会社  
一 三浦工業において、私はゼネラリストになりたいと考えています。オールマイティな人間になるために、常に成長していきます。  
二 はつきりとした将来は、誰もわかりませんが、しかし将来を考えたり、自分を見つめ直すことは誰でもできます。チャンスは、掴む！

**宇都宮 穂高**(明治大学・経済学部、西予市) 未定  
一 みかん作りを通して、地元を活性化させ

**谷 雄介**(早稲田大学・政治経済学部、鬼北町) 株式会社電通テック  
「プロモーション活動」や「イベントの企画・運営」といった会社の業務を活かし、南予地域の発展に貢献する活動を行いたい。  
二 「東京だからこそできることは何か」を考えて、実行してほしい。寮は居心地がいいですが、その居心地のよさに甘えすぎぬよう。

**大野 直基**(國學院大学・神道文化学部、鬼北町) 財団法人正光会  
一 社会人として一年目となります。自己責任と常識のある行動を取れるように頑張っていこうと思います。後、神社を守っていきます。  
二 大学四年間で学ぶことは今後の人生に大きく影響すると思います。勉学や研究部に活に遊びにといろいろなことにより一生懸命

**赤松 洸多**(中央大学・総合政策学部、鬼北町) 広島修道大学 法科大学院  
一 自分の努力で様々な人たちの助けに行きたいです。  
二 価値観の一つではありません。大学生活というフィールドの中で多角的な視点(価値観)を養って下さい。

**橋井 裕太郎**(中央大学・商学部、西予市) 未定  
一 会計士の資格を取得できるよう頑張りたいと思います。  
二 時間を有意義に使い、学生としても寮生としても後悔しない生活を過ごして下さい。

**友岡 清志**(専修大学・商学部、宇和島市) 岡三証券株式会社  
一 証券に関する知識・ノウハウを学んでいきたいです。また、学び得たスキルを活用して社会に貢献できる人材になります。  
二 大学生という自由で貴重な時間を大切にしてください。日々の生活の中で目的目標を持って行動するようにしてください。

**古谷 和崇**(専修大学・商学部、宇和島市) 未定  
一 人を和ませ、人から尊敬される人。まずは、公認会計士試験合格を目指します。  
二 人生はゲームだ！全力で楽しめ !!

**和多 慶祐**(帝京大学・文学部、宇和島市) 株式会社SOLPAC  
一 将来は、自分で店を出したいと考えています。そのためにも社会にでて、いろいろな学んでいきたいです。  
二 いろいろなことに挑戦してみてください。行動をとらなければ、何も始まりません。

**濱田 幸祐**(青山学院大学・法学部、愛南町) 留年  
一 就職活動中です。東京でも愛媛でもという感じなので両方でやってみようと思っています。  
二 自分はサークルに入ってなかったのですが、入っていれば良かったと思ったりもします。とりあえず所属することがおススメです。

**濱田 達明**(東京経済大学・コミュニケーション学部、愛南町) 留年  
一 自分の想いを大切に、世の中に大きな影響を与えられる人間になります！  
二 大学生活はあつという間に過ぎてしまうので、後悔しないように色々な経験をしてください。

**稲田 佑也**(東京電機大学・工学部、松山市) 伊予銀行  
一 四月から伊予銀行石井支店で勤務することになりました。しばらくは、愛媛を中心に四国の発展に貢献し、いずれば東京でビックになります !!

**谷脇 慎太郎**(東京外国語大学・外国語学部、松山市) 留年  
一 就活と並行して在外交館員派遣制度による、在インド日本大使館での勤務と、また実地での生活で活きた言語を習得したいと考えています。  
二 今年になって気づいたのですが、明倫館のような環境は滅多にありません。何でも楽しみをみつければ充実した生活になります。

**山本 和弘**(早稲田大学・法学部、松山市) 三機工業  
一 これから様々な失敗や挫折を経験すると思いますが、くじけずに常に向上心を持って、粘り強く頑張りたいと思います。  
二 大学生活では、飲み会などで生活リズムが乱れがちになりますが、自分なりの方法で工夫して規則正しい生活を送って下さい。

**谷脇 慎太郎**(東京外国語大学・外国語学部、松山市) 留年  
一 就活と並行して在外交館員派遣制度による、在インド日本大使館での勤務と、また実地での生活で活きた言語を習得したいと考えています。  
二 今年になって気づいたのですが、明倫館のような環境は滅多にありません。何でも楽しみをみつければ充実した生活になります。

### 良き伝統を伝えたい

自治委員長 丹 峻也  
東京工科大学(バイオニクス)三年

今期委員長を務めさせて頂く中で私が掲げていることは、寮生全体が、明倫館の一員であることがどういふことかをしっかりと自覚し、先代の委員長、先輩たちが築きあげてきた伝統を後輩たちに継承させるということです。任期終了まで他委員と共に、寮のよき伝統を伝えていきたいと思っています。

平成19年度	下期自治委員会
▷委員長	丹 峻也
▷副委員長	住田 篤志(東)
▷副委員長	井上 拓哉(西)
▷副委員長	久保 文亨(東)
▷整備	松本 慎吾(西)
	井上 晋太郎(サロン)
▷情報	田中 吉典
▷風紀	住田 篤志
▷広報	住久 聡
▷企画	久泉 高士
	井木 悠平
	鈴木 孝和



財団法人南豫奨学会

「奨学金支援会」だより

平成一九年度、南豫奨学会奨学金支援会  
結果報告並びに二十年度分について募金を継続中

平成十九年度、奨学金支援会の募金結果が  
まとまりましたのでご報告致します。

平成十九年度の募金総額は左記集計表の通り  
総額二百五十四万円に達しました(表1参照)  
これは平成十八年度の二百十八万円を上回るも  
のでした。関係各位の皆様のご支援の賜物  
と感謝致しております。この結果、平成十五年  
に奨学金支援会発足以来、合計一千万円余の募  
金をいただき、現在四名の奨学金として活用  
させていただいております。

引き続き皆様には平成二十年三月三十一日現  
在で百九万円のお振り込みをいただいております。  
(表2参照)本年度も総額三百万円を目標と  
致します。皆様のかかわりぬご尽力を伏してお願  
い申し上げます。

財団法人南豫奨学会奨学金支援会  
理事長 会長 伊達 宗 禮

平成二十年四月二十五日

お振込みは左記の郵便振込番号が銀行口座で  
受け付けております。

郵便振込番号 〇二五〇一二一九六五三三

名義 『南豫奨学会奨学金支援会』

伊予銀行新宿支店普通預金口座

一六〇六三九

名義 『財団法人南予奨学会奨学金支援会』

委員長 松本 三郎

(表1) 平成19年度支援会申込者数並びに募金結果 (平成20年3月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	13	400,000
評議員	37	740,000
OB	34	810,000
現父兄	11	125,000
一般	25	330,000
法人	2	90,000
市町村	1	50,000
合計	123	2,545,000

(表2) 平成20年度支援会申込者数並びに入金状況 (平成20年3月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	8	260,000
評議員	16	320,000
OB	20	285,000
現父兄	0	0
一般	14	145,000
法人	2	80,000
市町村	0	0
合計	60	1,090,000

※一般には元父兄含まず。

激闘！十二日 東京→愛媛  
ママチャリ帰省の旅

一〇〇〇キロ

古谷 和崇  
専修大学 商学部 四年

「始めに」

二〇〇七年冬、愛媛への帰省時に飛行機から日本  
の大地を見たとき、そのスケールのデカさを肌で感  
じてみよう、と、自転車で帰ることを静かに決意し  
た。

時は流れ二〇〇七年七月二十五日早朝七時、Tシャ  
ツに半ズボン、リュックサック、そして素足にサンダル  
というなんともいぬ格好で出発した。

「二日目：東京・小金井→静岡・熱海」

地図もコンパスもないが、とりあえず西へ行けば  
立川そこから南にいけば小田原あたりだな、など  
と安易に考えていた。第一の事件は開始十分でおき  
る。チェーンが外れた。前途多難な旅になることが  
確定した瞬間である。まあ旅は始まったばかりだし  
体力もある、ひたすら西だと思ふ方向へ進む。横浜  
という看板が見えたので方向を変えた。…のが失  
敗だった。いつの間にか逆走し、また同じ道を通る  
羽目に。地図はコンビニで立ち読みできることを知  
り、俄然勢いが出てくる。が、ここで、新たな事件発  
生、お尻が痛い、ついでにひざも。お尻の方は、事前に  
パンツとお尻の間にタオルを挟んでいたのだが、  
そうこうしている内に、ひざの痛みが洒落にならな  
くなり、サポーターとテーピングを購入。小田原に  
十五時ごろ着いたので、せっかくなら熱海まで行っ  
て温泉に入ろうとペダルを回す。自転車殺しの坂を  
終え、下っていくと静岡・熱海の看板が、しかしその  
先の道は山へと登っていく、もうひとつ海岸沿いの  
平らな道があったが、なんと有料道路、自転車では  
当然通れない。こうなったらもう笑うしかない。第  
二の坂道も終え町の方へ。二面海の景色を見ながら  
温泉に入った、自転車に乗れないぐらいお尻が痛  
かった。歩いて宿を探すが、そんな時偶然にも花  
火大会がはじまったりしたが、それどころじゃな  
い、という事になりベンチで横になる。が、眠れな  
い、地べたに変な虫がいる。怖すぎてファミレスで一  
夜を過ごすことに、しかし十分寝ることもできず二  
日目へ。

「二日目：静岡・熱海→静岡・静岡市」

コンビニで道のりを下調べした後、この旅最初の  
難関箱根付近の峠越えである、なんといつても傾斜  
角が半端じゃない町を出て少し上るともうそこは  
山の上。どれくらい上っただろうか、途中道を間違  
え四〇分ほどロスをした、霧も出てきて、若干寒さ  
を覚える、今夏真つ盛りだよ？など思いながら、出発  
から三時間ほどで頂上に着いた、下の景色はまったく  
見えない。トンネルを抜けるとき横を通るトラッ  
クの風圧で自転車が揺れるとさすがに死が頭をよ  
ぎる。二〇分ぐらいずつと下り続け、海端の道をひた  
走る、しかし快適な旅は長くは続かない。雨が降り  
カッパを着用、蒸れるし、暗いし、ケツとひざは相変  
わらず痛い。なんと静岡駅までやってきて、人生発  
の漫画喫茶で泊まる。時間は六時まで、これまた不十  
分な睡眠で三日目へ。

「三日目：静岡・静岡市→愛知・豊橋」

自転車は通れないトンネルをなぜか通りつつ先を  
目指す、そこには車輪の跡が、他にも勇者はいたの  
だ、順調に動いていた自転車にも魔の手が降り注ぐ、  
二日目に前のカゴのねじが吹っ飛び、三日目には前  
チェーンが外れた一人、二〇分ほど四苦八苦した挙  
句で直して、実はすぐ近くにあったガソリンスタ  
ンドで直してもらった。その後、二回も外れて大幅な  
タイムロス。お尻対策も二日目からサドルにタオル  
を置くことで何とかやってきたが、半ズボンでは摩  
擦と蒸れがたまらなくなり、パンツ二丁スタイルを確  
立。これがまたなんともこぎやすい。三時ごろやっ  
と豊橋駅に着くが付近に手ごろな寝床がないので  
続投、身も心もボロボロな深夜一時三〇ごろ、漫喫を  
発見、闇に舞い降りた天使でした。ゆつくり九時ごろ  
まで休んで四日目へ。

「四日目：愛知・豊橋→愛知・名古屋」

十五時ごろ名古屋に着き、友人宅で二日ぶりの風  
呂に入る、そして洗濯をし、ゆつくりと過ごし、五日  
目へ。

「五日目：愛知・名古屋→愛知・名古屋」

お尻とひざを休ませるためもう一泊する。ふとお  
尻にかさぶたを発見し、自分なりの対策を考えなが  
ら、六日目へ。

「六日目：愛知・名古屋→三重・伊賀上野」

五日目に購入したキネシオテーピングでひざとお  
尻をプロテクト、体力も回復し万全の状態に挑む。途  
中伊賀を通ったのだが、忍者がいるような雰囲気はし  
ていた。キネシオテーピングのおかげで、すこぶるお  
尻とひざの調子がいい。この日は早めに体を休めた。  
このとき、なんと父から着信が、まったくこの旅のこ  
とをいってなかったので内心恐ろしかったが、三重まで来  
たことを告げると、なんと安心したようだ。そして  
深夜一時、ふたたび自転車、七日目へ。

「七日目：三重・伊賀上野→大阪・大阪市」

名古屋の友人の怖い話を思い出し、もうなんか叫  
びたくなったので、大声で深夜の山道をひた走る。霧  
はすっかり、過ぎ去る自動車は数十分に一度のデカト  
ラックばかり、心細りたあたりやしない。そんな時、  
川沿いの町に入り、静けさや明かりの少なさをなんか  
が、なんとも懐かしく元気が出たのを感じている。  
朝五時半ごろ日の出も出てきて、いい気持ちになり  
道端で寝る。朝九時半ごろに姉のいる大阪に到着  
したものの、姉は出勤中、夜まで時間をつぶすべく友

人と過ごす、夜十一時頃姉宅へ、素足にサンダルの格  
好を見たときの姉の一言がまたよかつた、それまでの  
友人は馬鹿だな(笑)といっていたが、姉は「つえー  
な(笑)」である。姉の作った朝飯を食べ、八日目へ。

「八日目：大阪・大阪市→兵庫・赤穂」

途中、明石海峡大橋を発見するも、自転車では通  
れないので、その先にある四国に夢を膨らませ岡山  
を目指す。シーサイドロードという名の道を走って  
いたら、なぜか山を登っており、下りた後に後ろに見  
えたトンネルは見なかったことにする。そんなこん  
なで精神的にダメージをおった時にジョイフル発  
見、懐かしさのあまり入ってしまう。このところにな  
るともう周りを気にせず寝る度胸を身につけるが、朝  
四時、周りに誰もいないというプレッシャーに負け、  
九日目へ。

「九日目：兵庫・赤穂→岡山・倉敷」

岡山に入る前の山道で、身体に周りに異常を感じ  
る。なんか子バエが、周りを飛んでいる。ああとうと  
う腐ってきたなど、死臭でもしているのだろうか  
と不安になりつつプリンを食べ元気を出す。岡山バイ  
パスを通っていたら、パトカーから注意された警察  
に注意されるのも自転車旅の醍醐味のひとつ。しか  
し、自転車はダメで書いてなかったのだからしょう  
がない。この日も友人宅に泊まり、快眠だったが、台  
風が近づいているらしい、十日目へ。

「十日目：岡山・倉敷→広島・尾道」

尾道まで六十キロ、台風の接近と九州から広島ま  
で友人が来るというので、それにあわせて、少し遅め  
に出発。ここに来て初パンクも経験し、なぜかウキウ  
キしながら深夜0時ごろ目的地到着、友人は一時頃、  
福岡からバイクで三時間かけてきてくれた、ファミ  
レスで話し込み、タルトステッカーを手にいれ、十一  
日目へ。

「十一日目：広島・尾道→愛媛・松山」

この旅、第二の難関しまなみ海道にいよいよ挑戦、  
ここまでくれば愛媛は目と鼻の先、しかしラストス  
テージへ続く道だけあって、しまなみさんは恐ろし  
い道だった、なんといつても橋しか渡れない。橋を渡  
るために山に登れば、橋を渡ればまた下りる。そして  
島の中をサイクリングロードとは名ばかりの、デス  
ロードを走り、次の橋の下へ、の繰り返し。それでも、  
橋の上で愛媛の看板を過ぎるときは思わずガッツ  
ポーズしました。それにしても、愛媛の暑さ、この日は  
う、はじめてファミレス一発！リポDを服用、この日は  
先輩の家に泊められた、宇和島まで百キロきつ  
たいよいよ射撃圏内、二日目へ。

「十二日目：愛媛・松山→愛媛・宇和島」

大洲まで順調にやってきたら、自動車道路につら  
れて道を間違え、なんと愛媛で迷ってしまった(笑)  
なんとルートを復帰したものの、やっぱりラスト  
ステージだけあってここに来て第三の難関、大洲・宇  
和間の峠である、昼間の暑さもあって吐きそうにな  
りながら登った。吉田にて、二度目のパンク、もう後  
がない。日焼け止めを塗ってはみたものの、この日の

暑さには無駄だったようで、テーピングや、サンダル  
のあとがくつきりと残ってしまった。勲章みたいだ  
し、それはそれでいいかもしれない。百里を行く者  
は九十九里を半ばとする。って言葉もあるし、祖父母  
の家で泊まることにした、十三日目へ。

「十三日目：グランド・フィナーレ」

いよいよ旅も最終日、昼頃出発し、Tシャツには  
「東京→愛媛一〇〇〇キロ走破」と書いて、実家を目  
指す。途中その文字効果だろうかと、頑張れと数人に  
声をかけられ、ジュースをもらったり、写真も撮った  
りした。

二〇〇七年八月六日十三時  
実家に到着



「終わりに」

終わってみると、あつという間だったような気も  
するが、思い出せば出すほど、いろんなことがあつ  
た。飛行機ではあつという間の距離も、自分でこい  
みると、そこには山があり、谷があり、人がいる。普段  
見逃している事も、よく見れば新たな発見がそこ  
にある。

物事を始めるときに、目的や理由を考えることは  
必要だけど、それがなくても人は、何かを感じて、考  
えることができる。

何事もとにかくやってみることが大事。  
自転車に乗ると上り坂と下り坂に出くわす、下り  
坂は、こがなくてもいいので楽だが、  
上り坂は、こがなくてはいけないので大変。  
でもこれらの坂は、一方だけというわけではない。

「上り坂のない下り坂はない  
しかし、下り坂のない上り坂もない」

編集後記

▼今年の卒業生は十五名。「進路」は時代を反映  
し様々です。景気はよくなっているといつても  
生きていくにはまだ不安な時代が続きます。  
▼そんな時代でも若者は元気。ママチャリ紀行  
拡大コピーでお読みください。二十年度は二十  
五名の新入寮生を迎え新航海への旅立ちです。